

埼玉県県民活動総合センターE S C O事業に係る 提案審査の講評について

本事業は、県民のボランティアや高齢者活動の拠点である公の施設へのE S C O提案公募であり、省エネルギー設備改修並びに中央監視設備改修及び中央監視業務について、応募者の独自性あるノウハウを生かした提案を広く求めたところ、ジョンソンコントロールズ株式会社・東芝ファイナンス株式会社・入間空調株式会社・極東ビル管理株式会社、三菱UFJリース株式会社・株式会社山武・株式会社岡村電機、株式会社塩見・株式会社エネシステム・株式会社アペックの以上3グループから応募がありました。

埼玉県における事前の省エネルギー診断では、8.8%の省エネルギー率を見込んでいましたが、すべての応募者の提案が、いずれもこの値を上回る省エネルギー効果が見込まれる内容となっており、事業の技術面及び維持・運転管理面に具体性や妥当性がある提案でした。

これらのE S C O提案を、埼玉県県民活動総合センターE S C O事業提案審査要領に基づき、提案書・応募者によるプレゼンテーションなどについて、事前に公表した審査要領に従い、各委員の評点を合計する形で順位づけしました。

その結果、総合評点の最も高いジョンソンコントロールズ株式会社のグループの提案を最優秀提案とし、次点の三菱UFJリース株式会社のグループの提案を優秀提案とすることとしました。

ジョンソンコントロールズ株式会社のグループの提案は、空冷ヒートポンプモジュール型チラー及び冷温水一次ポンプの更新、冷温水2次ポンプのインバータ化による機器の高効率運転、照明設備センサー・インバーター化、中央監視装置の更新など、財政面、技術面、環境面でバランスのとれた多岐にわたる提案となっていました。特に、広範な機器を更新する点で、将来の県の修繕費を抑制するものでした。

また、三菱UFJリース株式会社のグループの提案は、館内照明器具を全面的に高効率照明器具に改修することや、中央監視装置更新などの提案で、E S C O事業期間中の採算性が最も高い優れたものでした。

さらに、株式会社塩見・株式会社エネシステム・株式会社アペックの提案は、蓄熱槽のシステムを見直す点に高い独自性が見られ優れたものでした。

最後に、多大なる労力をおかけし、貴重なるご提案をいただいた応募者各位に心からお礼申し上げます。

平成19年6月12日

埼玉県県民活動総合センターE S C O事業提案検討選定会議

委員長	高村淑彦
副委員長	石浜秀夫
委員	乾 久人
委員	鎌苅 悟
委員	津久井千章